

オピニオン

特別寄稿

国際女性デー
International Women's Day
2024

過去50年にわたる女性の権利のための闘いは、前進の物語だ。女性と女兒は障壁を取り払い、固定観念を壊し、より公正で平等な世界に向けて前進してきた。女性の権利はようやく基本的で普遍的な人権として認められた。教育を受ける女兒は世界中で何億人も多くなった。そして各地で先駆的な指導者らがガラスの天井を打ち破ってきた。だが、進歩は脅威にさらされている。完全な平等が実現するのはまだずっと先のことだ。何十億人もの女性や女兒が疎外や不公正、差別に直面し、男性による長年の支配が社会を形作っている。ジェンダーに根差す暴力が絶え間なくまん延し、人類社会を汚している。

一方、世界的な危機は女性や女兒を最も苦しめる。紛争、気候災害、貧困、飢饉が起これば、どこであろうと女性や女兒が最も深刻な影響を受ける。先進国でも開発途上国でも、性と生殖の権利を含む女性の権利に対する反発によって進歩が遅れ、逆行させられている。

女性の権利促進に投資を

国連事務総長 アントニオ・グテレス



1949年、ポルトガルの首都リスボン生まれ。リスボン工科大学。95〜2002年首相。05〜15年、国連難民高等弁務官。17年1月、第9代国連事務総長に就任し、22年1月から任期満了。

現在の速さでは女性の法の下の平等が完全に実現するのは300年ほど先になる。この変化の速度は率直に言って侮蔑的だ。今すぐに平等が必要なのだ。進歩の加速は政治的な野心と、今年の国際女性デーのテーマである投資にかかっている。私たちは女性に対する暴力を終わらせ、デジタル技術や平和構築、気候変動対策、そして経済のあらゆる分野で女性の参画とリーダーシップを促進するための取り組みに、公共投資と民間投資を必要としている。また固定観念と闘い、伝統と文化的な規範に挑戦する女性権利団体を緊急に支援しなければならぬ。現在、そうした団体は国際開発支出のわずか0.1%の資金しか受け取れていない。これは変わらなければならない。

投資というと、女性の日常生活から懸け離れたものに聞こえるかもしれない。しかし女子生徒に男子生徒と同じ機会を与え、彼女らに投資が欠かせない。デジタル教育を提供し、能力を向上させるには投資がいる。子どもを育てる母親が、家庭の外で有給の仕事をするための保育を提供するには投資が求められる。そして、いかなる背景を持つ女性や女兒も全面的に参加できる包括的なコミュニケーションと社会を構築するためにも投資が必要だ。

女性や女兒への必要な投資を確保するには、三つのことが求められる。第一に、持続可能な開発のための手頃な長期融資を利用できるようにし、多くの開発途上国を苦しめている債務危機に取り組むこと。そうしなければ各国は女性と女兒に投資する資金を確保することができない。

第二に、各国は女性と女兒の平等を優先し、平等が権利の問題であるだけでなく、平和で豊かな社会の基盤であると認識すること。これは各国政府が積極的に差別に向き合い、女性と女兒を支援する取り組みに出資し、彼女らのニーズに応える政策や予算、投資を確保する必要がある。

第三に、指導的立場の女性を増やす必要がある。女性が力のある地位に就くことで、女性や女兒の現実に対応した政策や取り組みへの投資を促進することが可能だ。

平等は待ったなしだ。家父長制に終止符を打つには投資すべきた。今こそ支払う時だ。

中国新聞

2024年3月8日掲載

共同通信配信